

2026年度 吉備国際大学
推薦総合選抜入学試験 英語 解答用紙
(11月15日)

受験地	受験番号								氏名

【Ⅰ】

設問 1

1	2	3	4	5
○	×	○	×	○

設問 2

- (1) 5月10日、ワシントン当局はファウラー氏とホーティン氏の功績により、
彼らを2024年の世界食糧賞受賞者とすることを発表した。
- (2) 食糧賞財団の本拠地であるアイオワ州デモインにて、今秋、彼らは年次賞を受賞し、
賞金50万ドル (7,700万円) を二人で分ける予定である。
- (3) ファウラー氏とホーティン氏は、世界食糧賞受賞者として選ばれたことで、世界中の種子バンク
基金への数億ドルの追加資金獲得を推進できるようになることを期待していると述べた。

設問 3

Hundreds of smaller seed banks have existed in other countries
for many decades

【Ⅱ】

設問 1

A	B	C	D	E	F	G	H
7	1	8	4	5	3	6	2

設問 2

A	B	C	D	E	F	G
3	7	2	5	1	6	4

【Ⅲ】

設問 1

1	2	3	4	5
A	C	B	C	D

設問 2

1	2	3	4	5
C	B	D	C	B

【Ⅳ】

設問 1

1	2	3	4	5
A	D	B	B	C

設問 2

1	2	3	4	5
B	C	A	B	C

2026年度 吉備国際大学

推薦総合選抜入学試験 国語 解答用紙 ―十一月十五日―

受 験 地									
受 験 番 号									
氏 名									

一 問一、

⑥	①
簡単	指摘
⑦	②
微生物	腕
⑧	③
腐敗	眺
⑨	④
対処	終日
⑩	⑤
病原菌	変革

問二、

や	食	日	日
空	を	を	常
気	お	浴	生
を	い	び	活
感	し	、	に
じ	く	新	お
る	い	鮮	い
。	た	な	て
	だ	空	、
	く	気	朝
	こ	を	気
	と	体	持
	が	内	ち
	で	に	よ
	き	と	く
	、	り	め
	お	込	ざ
	日	み	め
	さ	、	、
	ま	朝	朝

問三、

で	、	よ	購
、	ま	う	入
手	だ	な	し
で	食	時	た
確	べ	で	食
認	ら	も	べ
す	れ	、	物
る	る	そ	が
。	か	れ	賞
	ど	だ	味
	う	け	期
	か	で	限
	、	捨	を
	自	て	越
	分	る	え
	の	の	て
	鼻	で	し
	で	は	ま
	、	な	っ
	舌	く	た

問四、

見	じ	的	商
て	、	な	品
期	安	場	に
限	全	所	書
内	性	で	か
に	の	製	れ
食	目	造	た
べ	安	さ	日
る	と	れ	時
。	し	お	に
	て	店	無
	書	に	条
	か	出	件
	れ	さ	に
	て	れ	依
	い	て	拠
	る	い	し
	期	る	、
	限	と	衛
	を	信	生

二

問一、

①	とみな
②	いかん
③	きょうじゅ
④	いやおう
⑤	もうてん

問二、

①	一貫
②	規模
③	拡散
④	検討
⑤	架空

問三、

平	平	平
和	和	和
論	論	問
・	・	題
平	平	は
和	和	国
運	運	際
動	動	問
は	は	題
国	国	で
内	内	あ
に	に	る
だ	だ	の
け	け	に
限	限	、
定	定	戦
さ	さ	後
れ	れ	日
て	て	本
い	い	の

問四、

日本人が「他国の平和論」をほとんど知らないから。

問五、

「平和」という問題における「国際的共通項」

問六、

空しさ

問七、

ア
(2)
イ
(5)
ウ
(1)

2026年度 吉備国際大学

推薦総合選抜入学試験 数学 解答用紙
(11月15日)

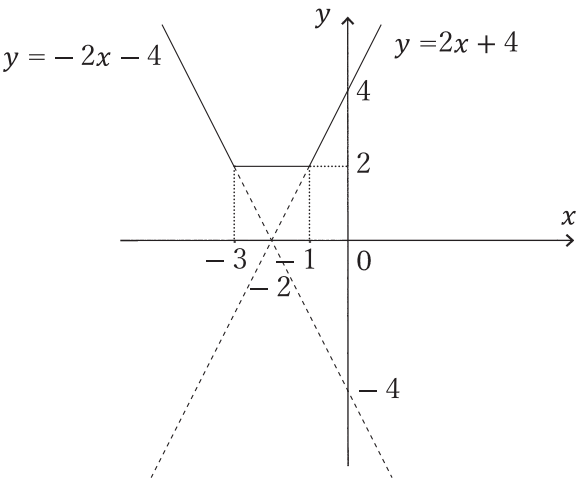
受験地	受験番号	氏名

[1] 解答に至る計算過程も採点の対象とする。

- (1) 与式 $= (x^2 - 1)(x^2 - 4) - 40 = x^4 - 5x^2 - 36 = (x^2 - 9)(x^2 + 4) = (x + 3)(x - 3)(x^2 + 4)$
- (2) $\frac{\sqrt{2} + 1}{\sqrt{2} - 1} = \frac{(\sqrt{2} + 1)^2}{(\sqrt{2} - 1)(\sqrt{2} + 1)} = 3 + 2\sqrt{2}$
 $x = 3 + 2\sqrt{2}$ とおくと、 $x - 3 = 2\sqrt{2}$ 両辺を 2 乗すると、 $(x - 3)^2 = 8$ $x^2 - 6x + 9 - 8 = 0$
したがって、 $x^2 - 6x + 1 = 0$
- (3) 変数 x について、平均値と分散には、 $(x \text{ の分散}) = (x^2 \text{ の平均値}) - (x \text{ の平均値})^2$ の関係にあるから
分散は、 $1480 \div 10 - 12^2 = 4$ 分散の正の平方根が標準偏差なので、標準偏差は $\sqrt{4} = 2$
- (4) 756 を素因数分解すると、 $756 = 2^2 \times 3^3 \times 7$ であるから、
 $\sqrt{756n} = \sqrt{2^2 \times 3^3 \times 7 \times n} = 6\sqrt{21n}$ これが自然数となる最小の自然数 n は、 $n = 21$
- (5) $xy + 2x - y - 8 = x(y + 2) - (y + 2) - 6 = (x - 1)(y + 2) - 6 = 0$ よって、 $(x - 1)(y + 2) = 6$
 x, y は自然数であるから、 $x - 1$ と $y + 2$ も自然数であり、 $x \geq 1, y \geq 1$ であるから、 $x - 1 \geq 0, y + 2 \geq 3$
したがって、 $(x - 1, y + 2) = (1, 6)(2, 3)$
ゆえに、 $(x, y) = (2, 4)(3, 1)$

[2] 解答に至る計算過程も採点の対象とする。

- (1) $x + 3 > 0, x + 1 > 0$ であるから、 $x > -3$ かつ $x > -1$ すなわち、 $x > -1$
絶対値を外すと、 $f(x) = x + 3 + x + 1 = 2x + 4$
- (2) ① $x + 3 > 0$ かつ $x + 1 \leq 0$
 $x > -3$ かつ $x \leq -1$ すなわち、 $-3 < x \leq -1$
絶対値を外すと、 $f(x) = x + 3 - (x + 1) = 2$
- ② $x + 3 \leq 0$ かつ $x + 1 > 0$
 $x \leq -3$ かつ $x > -1$ となるため、このような x は存在しない
- ③ $x + 3 \leq 0$ かつ $x + 1 \leq 0$
 $x \leq -3$ かつ $x \leq -1$ すなわち、 $x \leq -3$
絶対値を外すと、 $f(x) = -(x + 3) - (x + 1) = -2x - 4$
- (1) と ① と ③ をまとめて図示すると右図のとおり
- (3) $(-3, 2)$ を通るとき、 $a = -7$
 $(-1, 2)$ を通るとき、 $a = 1$
よって、 $-7 \leq a \leq 1$



[3] 解答に至る計算過程も採点の対象とする。

(1) 右に4、上に3進めばよいので、 $\frac{7!}{4! \cdot 3!} = 35$ よって、35通り

(2) S から A への行き方は、 $\frac{4!}{2! \cdot 2!} = 6$ 通り A から G への行き方は、 $\frac{3!}{2! \cdot 1} = 3$ 通り

したがって、A を通り G へ行く行き方は、 $6 \times 3 = 18$ 通り

(3) S から A に着くには右に2、上に2の計4回移動するので、4回振ったときに点 A にいるためには、4回のうち、 $1 \cdot 2$ が2回、 $3 \cdot 4 \cdot 5$ が2回出ればよい。 $1 \cdot 2$ が2回、 $3 \cdot 4 \cdot 5$ が2回出る確率は、

$$\left(\frac{1}{2}\right)^2 \left(\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{1}{36}$$

(2) より、S から A への行き方は6通りあるので、求める確率は、

$$\frac{1}{36} \times 6 = \frac{1}{6}$$

(4) A から G に着くには右に4、上に3の計7回移動するので、最短で7回サイコロを振る必要がある。

8回目にGにいるためには、8回のうち、 $1 \cdot 2$ が3回、 $3 \cdot 4 \cdot 5$ が4回、6が1回出ればよいので、

$$\frac{8!}{3! \cdot 4! \cdot 1} \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{1}{2}\right)^4 \left(\frac{1}{6}\right) = \frac{35}{324}$$

[4] 解答に至る計算過程も採点の対象とする。

(1) メネラウスの定理より、

$$\frac{AD}{DB} \cdot \frac{BE}{EC} \cdot \frac{CF}{FA} = \frac{1}{1} \cdot \frac{3}{2} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

$$\frac{CF}{FA} = \frac{2}{3}$$

よって、 $AF : FC = 3 : 2$

(2) $AB = AC = 5$ であるから、余弦定理より、

$$DF^2 = \left(\frac{5}{2}\right)^2 + 3^2 - 2 \cdot \frac{5}{2} \cdot 3 \cdot \cos 60^\circ = \frac{31}{4}$$

$$DF > 0 \quad \text{なので、} DF = \frac{\sqrt{31}}{2}$$

(3) それぞれの面積を S_1 、 S_2 とする。

$\triangle ABC$ は一辺の長さが5の正三角形なので、

$$S_1 = \frac{1}{2} \cdot 5 \cdot \frac{5}{2} \sqrt{3} = \frac{25\sqrt{3}}{4}$$

また、

$$S_2 = \frac{1}{2} \cdot AD \cdot AF \cdot \sin 60^\circ = \frac{1}{2} \cdot \frac{5}{2} \cdot 3 \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{15\sqrt{3}}{8}$$

したがって、求める面積の比は、

$$S_1 : S_2 = \frac{25\sqrt{3}}{4} : \frac{15\sqrt{3}}{8} = 10 : 3$$